

平成25年度佐賀県学習状況調査(5年生) 分析結果と今後の対応について

【小城市立芦刈小学校】

国語

○県平均とほぼ同じである。
○「漢字や言葉に関すること」は県平均を大きく上回り、「話すこと・聞くこと」「書くこと」はほぼ同じで、「読むこと」は大きく下回っている。
○説明文の内容を決まった字数で書いたり、条件に合わせて文章を書いたりことができていない。漢字の読み取りやローマ字の読み書きの問題は、県平均を上回っている。

★今後の対応

- ①「よみときタイム」で、長い文章を読んで段落をまとめごとに分けたり要点をまとめたりする活動を取り入れる。
- ②文章構成や要点をまとめて書く学習の充実を図る。
- ③国語辞典を手元に置かせ、必要に応じてすぐ調べることができるようにする。
- ④「漢字タイム」を使って正しく漢字を書く習慣づけをし、家庭学習で継続して漢字の練習に取り組ませる。
- ⑤ローマ字の読み書きの練習を継続して取り組ませる。
- ⑥家庭と連携を取り、読書を家庭でも増やしてもらおう。また、毎日の音読練習に協力してもらおう。

算数

○県平均を大きく上回っている。
○4年生で、具体物や図を使って確かめながら学習を進めたり、反復練習を重視した内容はよく理解をしていて、県平均を大きく上回っている。
○どの内容・領域も県平均を上回っている。特に「量と測定」「図形」領域が県平均を大きく上回るが、 $1\text{m}^2 = \text{何}\text{m}^2$ を答える問題では、長さの単位で解答しているまちがいが多かった。また、伴って変わる二つの数量の関係から未知数を求める問題に誤答が多く見られ、図や表から情報を正確に読み取ることは不十分だった。
○全体的に学習したことをそのまま問われる問題の正答率が高いが、表現を変えた問題や文や図をしっかりと読み取らなければならない問題の正答率は低い。

★今後の対応

- ①自分の考えを図や式や文章で表現する活動を常時取り入れ、考えの理由や根拠を説明させながら学習をする考える授業づくりに取り組んでいく。
- ②個に応じた指導を続け、基礎的な内容の定着を図る。
- ③多種多様な問題を数多く取り組ませることによって、応用力を身につけさせる。
- ④時間配分を考えて問題を解くことができるように普段のテストやプリントを通して経験を積ませる。

“ 継続は力なり ” (芦刈小の児童の学力向上に向けて)

毎週火曜と水曜の朝の時間は「10分間の読書＋のびのびタイム(10分間の計算)またはよみときタイム(文章を読んで自分の考えを書く活動)」、同じく木曜は「読書＋スピーチタイム」、水曜日の午後15分間は「漢字タイム」を、全校一斉に行っています。3、4年生は総合的な学習の時間の一部を利用して、読解力をつける「よみときタイム」に取り組んでいます。

社会

○県平均を大きく上回っている。
○「住みよいくらし」「県の様子」が県平均を大きく上回っている。特に浄水場の働きや森林の役割、佐賀県の特徴が理解できている。
○グラフや写真や地図から読み取り文章で表現する資料活用・表現力を問う問題が不十分である。

★今後の対応

- ①資料から読み取ったことをもとに、質問を考えたり理由を述べたりする活動を多く取り入れ、記述することになれさせる。
- ②単元の終わりには、習熟の時間をとり、確かめの問題をさせることで知識の定着を図る。
- ②問題や資料を丁寧に読み取る活動を増やし、考える場面を取り入れていくことで、さらに理解を深めさせる。
- ③地図を見る機会を増やしたり、地名クイズなどの活動を取り入れたりして、地図に親しませ方位を意識させる活動を増やしていく。また、地図と自分の住んでいる地域と結びつけながら、見学や調査活動、新聞にまとめる等の体験活動を取り入れる。

理科

○県平均をやや上回っている。
○「物質とエネルギー」の領域では、県平均を大きく上回っていた。しかし、体積というキーワードを使って理由を述べる問題や実験方法や実験結果について記述する問題につまずきが見られた。
○「生命・地球」の領域では、県平均とほぼ同じである。しかし、季節の変化に伴う動植物の様子を理解が不十分だった。

★今後の対応

- ①実験・観察をする際、「何を明らかにする実験・観察なのか」という目標をしっかりとらせる。また、予想をたてさせてから実験・観察の方法を考えさせるなど、見通しをもって学習させる必要がある。
- ②実験や観察の結果から分かったことを説明するコミュニケーション活動や文章に表す活動を取り入れる。
- ③自然観察を伴う学習では、ビデオやインターネット等の視聴覚教材を活用し、児童自身に実感させ理解を深めさせる。